

平成 28 年度 技術情報第 1 号
ジャガイモ 疫病

平成 28 年 4 月 27 日
静岡県病害虫防除所長

昨年に引き続き、県西部地域でジャガイモ疫病の発生が確認されました。
発生の拡大が予想されるため、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

4 月下旬に県西部地域で行ったジャガイモの巡回調査において、低率ながら疫病の発生を確認した。4 月の調査における発生確認は、過去 20 年間のうち、本病の多発した平成 27 年に引き続き 2 度目である（表 1）。本病は短期間で蔓延し、生育初中期の発病は経済的被害が大きいことなどから、今後注意が必要である。

2 発病条件

葉、茎、塊茎など全ての部位に発病する。また、本病原菌は多湿を好み、水媒伝染するため、気温が 20℃前後で降雨や曇天が続く時に多発する。

気象の一月予報では、今後の気温は平年より高く降水量は平年並～多いと予想され、感染・発病に好適な条件が続くことから、発生の拡大が懸念される。

3 防除方法

- (1) 疑われる症状がある場合や、周辺ほ場で多発している場合など、感染源が多いと予想されるほ場では、薬剤を予防的に散布する。前年に発生したほ場では土壌中の残渣に病原菌が生き残っている可能性があるため、特に注意する。
- (2) 発生ほ場では、保護効果や治療効果の期待できる薬剤を 7～10 日おきに散布する（表 2）。また、薬剤が葉裏まで十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 塊茎への感染を防止するため土寄せを行う。
- (4) 周囲への感染拡大を防ぐため、被害株や被害残渣は塊茎も含めきれいに取り除き、ほ場外に持ち出し焼却処分する。感染源になるため、ほ場の周辺には放置しない。

表 1 ジャガイモ疫病の発生状況

| | 平成 27 年 | | | 平成 28 年 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| | 4 月下旬 | 5 月上旬 | 5 月下旬 | 4 月下旬 |
| 発病株率 (%) | 21.9 (0.0) | 36.7 (1.0) | 40.2 (6.3) | 0.2 (2.2) |
| 発生面積率 (%) | 100 (0) | 91 (16) | 100 (46) | 8 (10) |

※ () 内は過去 10 年間の平年値を示す

平成 7 年～26 年は 4 月の発生なし



図1 罹病初期の葉



図2 罹病した茎葉

表2 ジャガイモ疫病に対する主な薬剤

| 期待できる 効果 | 商品名 | 使用 方法 | 希釈倍率 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | FRACコード ¹⁾ | |
|-------------------|---------------|----------|------------|----------|-------------|-----------------------|-----|
| | | | | | | 成分1 | 成分2 |
| 保護効果 | コサイド3000 | 散布 | 1000倍 | - | - | M1 | |
| | Zボルドー | 散布 | 400倍 | - | - | M1 | |
| | ドイツボルドーA | 散布 | 400~800倍 | - | - | M1 | |
| | ジーファイン水和剤 | 散布 | 1000倍 | 収穫前日まで | - | M1 | NC |
| | ジマンダイセン水和剤 | 散布 | 400~600倍 | 収穫7日前まで | 10回以内 | M3 | |
| | ジマンダイセンDF | 散布 | 600倍 | 収穫7日前まで | 10回以内 | M3 | |
| | ダコニール1000 | 散布 | 500~1000倍 | 収穫7日前まで | 5回以内 | M5 | |
| | ペンコゼブ水和剤 | 散布 | 400~600倍 | 収穫7日前まで | 10回以内 | M3 | |
| | ライメイフロアブル | 散布 | 2000~3000倍 | 収穫7日前まで | 4回以内 | 21 | |
| | ランマンフロアブル | 散布 | 1000~2000倍 | 収穫7日前まで | 4回以内 | 21 | |
| | レーバスフロアブル | 散布 | 1500~2000倍 | 収穫7日前まで | 2回以内 | 40 | |
| | エムダイファー水和剤 | 散布 | 400~650倍 | 収穫14日前まで | 7回以内 | M3 | |
| | フロンサイド水和剤 | 散布 | 1000~2000倍 | 収穫14日前まで | 4回以内 | 29 | |
| | エキナイン顆粒水和剤 | 散布 | 2000~3000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | 27 | 40 |
| 保護効果 + 治療効果 | カーゼートPZ水和剤 | 散布 | 600~800倍 | 収穫7日前まで | 4回以内 | 27 | M3 |
| | プロポーズ顆粒水和剤 | 散布 | 750~1000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | 40 | M5 |
| | ホライズンドライフロアブル | 散布 | 1000~2500倍 | 収穫14日前まで | 4回以内 | 27 | 11 |
| | フェスティバルC水和剤 | 散布 | 400~600倍 | 収穫14日前まで | 3回以内 | 40 | M1 |

¹⁾ 殺菌剤耐性菌対策委員会による作用機構による分類

※農薬の使用に当たっては、必ずラベルを確認し使用基準を遵守する。

耐性菌の発生を防ぐため同一FRACコードを含む薬剤の連用を避ける。

静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 (<http://www.s-boujo.jp>) に掲載されている薬剤から抜粋（平成28年4月 日時点 JPP-NET 配信データによる）

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

URL <http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>